奥州市における記録史料の調査および仮目録の作成

はじめに

奥州市史料調査事業について

- 平成29年度から実施
- 対象は、市内に関係する“記録史料”
  →年代は問わない
- 調査方針
  →①史料群の現状確認（公有・私有問わず）
  →②史料群の目録（リスト）化（管理用）

目的：市内に関係する史料を保存し、歴史・文化を後世に伝えるため

奥州市史料調査事業について

- 記録史料とは…

→“アーカイブズ”の日本語訳。有形・無形を問わず、人類が生み出してきたあらゆる記録。特に、文字媒体の史料で、群になっているものを指す。

・奥州市の場合は…

留守家文書・岩谷堂伊達家文書・下柳千葉家文書＝中近世の古文書群
後藤新平文書・斎藤實関係文書　＝近代の文書群
奥州市文書　＝公文書

実際の調査現状

調査①　現状確認調査

- 現在の史料群の状態
  →残っているか
  →所有者
  →数量及び保存状況

調査②　史料群の目録（リスト）化

- なぜ目録が必要か？
  →管理するため＋閲覧するため
  ＝バラバラの状態で管理はできない！

調査②　史料群の目録（リスト）化

- 手順1　現状記録
- 手順2　目録作成
- 　→目録に必要な項目は？
- ISAD(G)（国際標準）に基づき、若干変形して以下の項目を標準とする。=史料群の特徴に合わせ項目の加除をする
- 　→管理番号、表題、作成者、作成年月日、数量、形態、劣化状況
- 手順3　中性紙箱・封筒への封入

文久三亥年

御番頭番帳

九月吉日

上川弥七郎
千葉茂左衛門

古文書用語大辞典
B5 100

ここからの研究の可能性

研究への活用

『下柳千葉家文書』からみた御艜肝入と北上川舟運
—「上川御石艜順番帳」の考察を中心に—

『下柳千葉家文書』の伝来
大肝入、御艜肝入として活躍した下柳千葉家の来歴
「上川御石艜順番帳」の表紙と書式構成

- 天保十二年（一八四一）の「上川御石艜順番帳」の考察
- 文久二（一八六二）～慶応元年（一八六四）の「上川御石艜順番帳」の考察
- 明治三（一八七〇）～明治四年（一八七一）の「上川御石艜順番帳」の考察
- 北上川舟運の衰退

今後の展開予定

今後の展開予定

- 奥州市で目録化されていない史料群を迅速に目録化・保存
- 目録作成・保存後に研究活用できるよう対応
- 市民の方々にも利用できるように対応
- 後世にも残せるように一括で保存